

日本SOD研究会報

No.74

アガリクス... 健康への効果、未確認

ブラジル原産の食用キノコ。ヒメマツタケなどとも呼ばれる。「免疫を高める」といったうたい文句で、健康食品として人気がある。がん患者の体験記として紹介した本の中で、「がんに効くアガリクス」などと特定商品を広告したなどとして警視庁は今年、東京都内の出版社と健康食品販売会社を薬事法違反の疑いで家宅捜索した。2005年4月23日朝日新聞より引用

岩手県の女性(73)は、「アガリクス」や「健康食品」といった文字を目にすると思苦しい気分になる。

2年ほど前、長女をがんで亡くした。39歳だった。

医師に診てもらった時はすでに「末期の大腸がん」。約1年10ヶ月の闘病生活の間、新聞や雑誌などの広告を読みあさり、アガリクスをはじめ10種類以上の健康食品に約250万円をつぎ込んだ。

一時は検査結果がよくなり、「効いている」と感じることもあった。だが娘の死後、健康食品会社の違法行為や、行政による指導の報道に接し、ため息がでた。「娘は治りたい私は治したい一心でいるような商品を使っていたのです...」

がん専門医らで作るNPO「キャンサーネットジャパン」の岩瀬哲医師(緩和医療学)が診察する患者は、ほとんど全員が何らかの健康食品を使っている。中でもアガリクスの利用者は圧倒的に多いという。「今の日本では死が身近に感じられなくなっている。死に至る病であることを受け入れられず、健康食品などに頼るのでは」と分析する。

220億円市場

民間市場調査会社「富士経済」のH・

増える誇大広告

Bフーズマーケティング便覧2005によると、アガリクスの販売高は01年の203億円から02年に220億円になった。05年には224億円に伸びると予測している。

製造・販売会社は10年ほど前から目立ちはじめ、今では200〜300社とも言われる。「岩出菌学研究所」(津市)は65年に人工栽培を始め、「姫マツタケ」として売り出した。しかし、傷みが早く、食用としては断念。「がん患者が飲んで楽になった」といった話を聞き、加工して健康食品にした。同社の担当者は、「うちの商品を飲んだ患者さんで、がんがよくなった人はいる。われわれは法にのっとっている。変なことをする会社のせいで、業界全体のイメージが悪くなるのが心配だ」と話す。

健康食品には法的な規定はない。個別に許可される「特定保健用食品」と、ピタミンやミネラルなど17種類の栄養成分を一定量含む「栄養機能食品」以外は、健康への効用の表示は認められていない。だが、がんは日本人の死因の1位。患者や家族の思いは切実だ。

今の西洋医学では、治療の手だてがなくなった末期がん患者は痛みを和らげる緩和ケアに頼ることになる。しかし、市民団体「医療消費者ネットワークMECON」代表の清水とよ子さんは、緩和ケアをする医療機関が十分ないと指摘する。「何もできないまま家で過ごすしかない患者や家族が、どうしても健康食品に頼ってしまうがち。簡単に答えの出ない問題だ」

本・ネットで

そんな思いにつけ込む形で、違法な商法が後を断たない。

厚生労働省は、科学的根拠が乏しいにもかかわらず、「がんが治った」などとアピールする虚偽・誇大広告が増えていることを懸念する。

巻末やしおりに販売会社の連絡先を表示した本や、「がんが治った」などと書かれた本をインターネットによる広告に引用した健康食品... それらの商品を販売した業者などへの文章での行政指導は、これまでに70件以上にのぼっている。

「違法な広告を信じた人が適切な治療を受ける機会を逃す恐れがある。認識できていない例がほかにも多くあることは想像できる」と同省食品安全部の担当者。健康食品の効果をわかりやすく示す取り組みも始まっている。

厚生労働省と国立健康・栄養研究所は昨年7月から健康食品の素材情報をネットで公開している。現在、データベース化されているのは98種類。国内外の学術雑誌に掲載された論文を中心に有効性や安全性に対する研究の有無を掲載している。

アガリクスの素材としての有効性の総合評価は「ヒトに対する有効性については参考になる十分なデータは見当たらない」となっている。

同研究所は、「テレビや雑誌で」に効果がある」と盛んに健康食品が紹介されているが、どこまではずりしているか一般の人たちに知ってもらいたい」としている。

改正特商法適用 を適省 経産省

健食業者に業務停止命令 ダイエット表示に「根拠なし」

05年4月13日健康産業新聞から引用

経済産業省は1日、ダイエット健康食品を通信販売で展開していたサツポ口製薬(株)に3ヶ月の業務停止命令を出したと発表した。昨年11月11日に施行された改正特定商取引法第12条の2を適用した初の事例。同様の規定を定める改正景品表示法の初適用事例に続き、特商法でも最初にダイエット健康表示が問題視された。

サツポ口製薬(株)は平成15年12月8日設立の企業で、通信販売を中心に売上規模は約13億円。同社では昨年11月29日、「食後に飲むだけで健康的に痩せられる」など、食事制限を伴わないダイエット効果をうたう「奥様美容で酢BT」という健康飲料の新聞折込チラシを全国で計500万部配布。これに対し苦情相談が寄せられたため、経産省では改正特商法に従い根拠資料の提出を要求した。同社は「臨床実験報告」とする資料を提出したが、「わずか4枚紙で、100人で実験をしてやせたといったが、食事状況など測定時の条件が客観的なデータではなかった」といい、体験談レベルのものだったという。経産省では「合理的な根拠

ではない」と判断、同社に対し、4月2日から7月1日までの3ヶ月間、通販業務の停止を命令した。

さらに同社では「満足できなかったら返金」としていたが、詳細なダイエット報告や返金希望理由についての1000字以上の書面提出など、厳格な条件を設定。これについても法第11条第1項第4号に基づく広告表示義務違反とみなした。

改正特商法では、表示の根拠となる資料を提出できないと即違反となる。抜本改正が行われた健康増進法も表示規制を強化しているが、罰則を適用する前に行政の改善指導が行われる。これに対し、特商法では今回のケースのように、提出しても合理性がないと判断されれば、即座に行政措置が取られる。経産省では、「広告には常に監視を行っている。今後、厳しくかつ迅速に対応していく」と法の適用強化に言及。また、個人・法人を問わず、違法事例を告発できる特商法の「申出制度」も活用していく。さらに特商法違反には警察も目を光らせており、昨年11月17日には逮捕事例も発生している。



リウマチ治療薬「アラバ」の副作用疑いで16人死亡

リウマチ治療薬「アラバ錠」(一般名レフルノミド)の副作用とみられる間質性肺炎が相次いでいる問題で、死亡した患者は、16人に上ることが24日、厚生労働省のまとめで分かった。厚労省は2004年1月、間質性肺炎の危険性を添付文書で警告するよう販売元に指示。その後、発症は減ったものの続いており、同省は改めて注意を呼びかけた。

アラバ錠は03年8月以来、患者5000人余りに投与され、販売元が全員の6ヶ月後までの状態を追跡調査している。04年11月までの集計では、投与との因果関係が否定できない間質性肺炎が41例あり、うち、16人が死亡。発症は60〜70歳代の女性が多く、死者のうち間質性肺炎の既往歴がある患者が12人を占めた。

厚労省は04年3月、医療関係者向けに間質性肺炎への注意を呼びかけ、そ

の時点では死者数を12人としていた。
2005年2月25日日本経済新聞より引用

抗生剤服用、新たに8人が意識失う…自動車事故2件

肺炎やのどの炎症治療に使われる抗生剤「テリスロマイシン」(商品名・ケテック錠)の服用者に意識を失う副作用が相次いで、8人が意識を失い、うち自動車運転中の2人が対向車と接触するなどの交通事故を起こしていたことが14日わかった。

発売後約1年で7人の副作用報告があり、厚生労働省は先月21日に、この抗生剤に注意を呼びかけていたが、その後の1週間で新たに8人の事例が報告された。

厚労省は、製造元のアベンティスファーマに対し、服用後に意識が消失する可能性があり、自動車の運転を控えることを、医療機関に徹底して情報提供するよう口頭指導した。テリスロマイシンは一昨年12月に発売開始。推定で340万人が服用している。

2005年1月15日読売新聞から引用

元氣な日々

延ばす治療も必要

2005年1月10日読売新聞から引用

初めはいつも唐突である。佐藤善之さん(40)が直腸がんと知ったのも、かかりつけの医者を書いた診療情報提供書(昔でいう紹介状)を開いて読んだ時のことだった。A病院に行く前、自分の病名くらいは知っておきたかった。「単なる痔(じ)とは違う!」直感が当たっていた。病名は英語で書いてあったが、ネットで調べると、直腸がんとわかった。2003年9月のことである。A病院の手術で人工肛門になっても、佐藤さんが予想していたほど苦にはならない。それより、肝臓にある転移は治るのか。B大学病院、C病院で抗がん剤治療を受けたが、がんはゆっくり成長し続ける。

2004年9月、私はC病院の医者から佐藤さんの治療を依頼された。佐藤さんのがんが治癒(完治)する可能性は、一つしかないからだ。米国から一つの薬を輸入し、日本の薬と合わせて、世界で最も効果があるとされている最強の抗がん剤治療(5FU+ロイコボリン+イリノテカン+オキサリプラチン)をするのだ。最強といっても辛(つら)くはない。丁寧な治療をすれば、そもそも抗がん剤で苦しむことなどほとんどない。治療は順調である。手術とれるほど小さくなってきた。

転移をとることができれば、4割以上の確率で佐藤さんのがんは治癒する。

がん医療の進歩は、(1)今まで治らなかつたがんが治るようになることである。佐藤さんもその前線で闘っている。もっと大切な研究は、(2)がんにならないことだ。(3)治るがんをもっと優しく安全に治療できないか、という研究も大切である。もう一つある。(4)治らないがんでも「元氣な日」を1日でも長く」という治療をする。一般の人からはもっとも縁遠い治療である。(4)を「単なる延命治療ではないか」と思う人は、健康な証拠だ。

意外にもがんは最後の最後まで牙をむかない。痛み止めの技術が進歩し、痛みで苦しむことは昔話である。がんが進行しても頭はしつかり働き、日常生活が大きく変わることもない。元氣な日を1日でも長く延ばす治療は、いわゆる「延命のための延命治療」とは異なる。そもそも、すべての人は必ず死を迎える。だとすれば、あらゆる医療は広義の延命治療である。

人々にもっと(4)の恩恵を受けるべきだ、と私は考える。憎いがんだが、それでも日常生活は可能である。佐藤さんのがんが治癒する事を願い、私は治療している。でも仮に治癒しなくても、それががんと闘いがおわるとは、佐藤さんも私も思っていない。

外科医 平岩 正樹

SOD様作用食品の開発

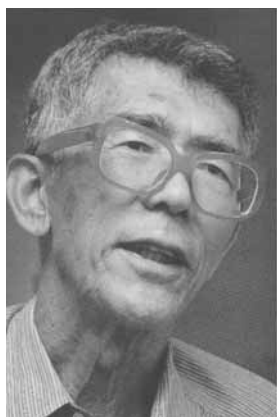
丹羽SOD様作用食品の開発者である丹羽耕三博士は、丹羽免疫研究所所長であり土佐清水病院院長として、毎日、医療の現場で、癌、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたられています。

丹羽博士は昭和37年に京都大学医学部を卒業され、医学博士を取得されました。その後、活性酸素とSODの研究を臨床家として国内はもちろん、世界的にも最も早くから手掛ければ、世界的権威として、広く海外に知られています。

SODなどの生体防御の研究論文が著名な英文国際医学雑誌に続けて発表され、その数は70編を越します。多忙な治療の傍ら、国際医学専門誌(Biochemical Pharmacology)への投稿論文の審査員もされています。国内では、ペーチェット病やリュウマチ、アトピー性皮膚炎の治療・

研究に長年従事し、多くの難病の原因を活性酸素の異常から解明し、これらの難病の治療に関して、SOD様作用食品等の低分子抗酸化剤や抗癌剤を自然の植物・穀物より開発し、大きな治療効果を上げています。

私が開発した天然の抗酸化剤であるSOD様作用食品は、いま全国何十万人、何百万人という方々に健康食品として愛用されています。何百人という医師にも医療現場で難病の患者さんに使っていただき、優れた治療効果をあげています。



丹羽耕三博士

あしたも元氣 (No 66)

「香辛料」で梅雨をのびのび〜

じめじめとした梅雨時は、食中毒シズンであり、また、だるい・食欲倦怠など、体調にまで影響が出やすい時期です。そこで梅雨をのりきるための食品「香辛料」を上手に利用していきたいものです。香辛料には、食欲を増進させる、胃液の分泌を促進させる、消化器官内を殺菌する、病原菌や食中毒の原因となる菌を殺菌する、防腐力が強く食品の保存性を高める、食材の臭みを消す、などの役割があります。

しょうがの辛味成分「ジンロゲン」と「ショーガオール」には食欲を増進させる働きや殺菌作用があります。

「ジンロゲン」は、食品に対する抗菌作用が強く、魚などによる食中毒を予防します。また胃壁を適度に刺激してでんぶんの吸収を助けて食欲を増進させる働きがあります。

「ショーガオール」は、酸化防止の働きがあります。

またジンロゲンと結合して食材の生臭さを消す働きがあります。

わさびの辛味成分「アリルからし油」が食材の生臭さを消す働きがあります。

この辛味成分には、コレラ菌・チフス菌・大腸菌などの病原菌に対しての抗菌作用があり、「太陽に次ぐほど強い」といわれるほどの殺菌力があります。

また、サバやアジ、ニシン、イカなどに寄生するアニサキスという寄生虫を死滅させる働きがあります。

わさびの辛味成分は発揮性が高いため(ツーンと鼻から抜けるので)胃腸を荒ら

さずに胃壁を刺激し胃液分泌を促し食欲を増進させる働きがあります。またでんぶんを分解し消化吸収を促進します。

にんにくの独特のにおいのもと「アリシン」は、強い殺菌力があります。また大腸菌の成長を抑える働きがあります。

「アリシン」は体内でビタミンB1と結合して「アリチアミン」という物質になります。これが通常のビタミンB1の2倍の働きをし糖質をエネルギーに変換するので、スタミナアップ・体力の低下予防・疲労回復に絶大な効果があります。

にんにくは豚肉などビタミンB1と一緒に食べましょう。

にんにくを料理に使うときは「細かくきざむ」「すりおろす」が基本です。にんにくの細胞を壊すことで「アリシン」ができるのでこしょうないとアリシンが働かないし、吸収されやすい「アリチアミン」もできにくくなってしまいます。

にんにくは油で炒めるとより効果的です。「アリシン」は熱には弱い油といっしょだと分解されにくいのです。

ピリっとする辛味成分「カプサイシン」が、胃液の分泌を促進し、胃腸の働きを活発にさせ食欲を増進させます。また消化吸収を助けます。

末梢の血管を拡張して血行をよくする働きがあります。とうがらしを食べると体が熱くなりカッカとしてくるのはそのためです。

「カプサイシン」は、体内の脂肪を分解し、燃焼させる働きがあるので、ダイエットにも効果的です。

食中毒を防ぐ働きがあります。

【栄養士高橋広海】

丹羽博士の著書

丹羽博士の、一般向けの著書の一部を紹介いたします。活性酸素と病気、SODについて、平易に書かれています。

- 「安心の医療・本当の健康」(みき書房(株))
- 「クスリで病気は治らない」(みき書房(株))
- 「白血病の息子が教えてくれた医者的心」(草思社(株))
- 「活性酸素で死なないための食事学」(廣済堂(株))
- 「正しい「アトピー」の知識」(廣済堂(株))
- 「天然SOD製剤がガン治療に革命を起こす」(廣済堂(株))
- 「医は仁術なり」(致知出版(株))
- 「SOD様作用食品の効果」(小冊子)リーフレット全20巻



SOD関連出版物一覧

バックナンバについて

日本SOD研究会では、これまでに発行した「会報」のバックナンバを用意しています。様々な疾患と活性酸素の関係について掲載しています。

ご希望の方は、最寄りの取扱店または、日本SOD研究会

(〇四九 二五五 八七八・FAX兼用)

までご連絡ください。

丹羽SOD様作用食品

